

一般質問のつづき

3. 空家等控除支援事業について

この建物を見てどう思いますか？これは県道のすぐそばにあり、風が吹いて瓦が飛んで車に当たらないかとハラハラしています。

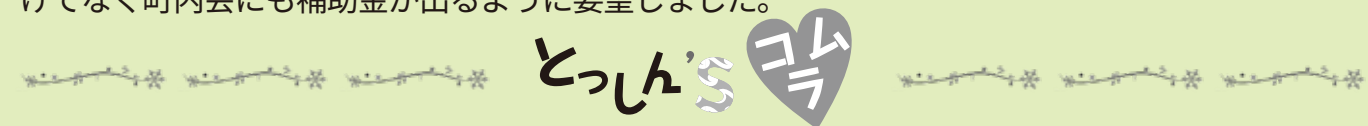
そしてここは、小学生 2 町内会の十数人が通る通学路沿いでもあります。中学生の通学路でもあります。持ち主は、町内会法人です。もともとはお国が建てた米蔵を農協に所有者移転したものを、町内会に移管された農業倉庫です。

なので、どうかして倒したいとは思いますが、皆さんご存じの通り解体には多額の費用がかかります。市には、空家等除却支援事業があり、事業費の 3 分の 1 で上限 50 万円がでます。しかし、この補助金は個人にしかでないので、町内会では使えません。

この建物は、通学路でもあり一日も早く壊さなければいけないと思うのですが、町内会に丸ごと押し付けられても、本当に厳しいものがあります。

くさかとしこの主張： —————

どうかして一日も早くこんな危険な建物は、倒したいと思えます。そのためにもぜひ、個人だけでなく町内会にも補助金が出るように要望しました。



天王様に手すりが付きました！

写真は秋の天王様の時の竣工式の様子です。

【歴史文化資源保存・活用支援事業補助金】は、瀬戸内市の文化財などの歴史文化資源の中で、あまり保存・活用が進んでいないものにスポットを当て、改修したり説明パネルを設置したりして、広く市民や観光客に周知する事業に交付するものです。

磯上には、牛窓から須恵を通り、備前に抜ける古道があり、道標・道祖神・環状列石・神社跡・城跡・古墳・磐座と、歴史の宝庫です。磯上地域に多く存在する自然崇拝の対象である、【磐座（いわくら）】を地域に周知し、親しみをもってもらうとともに、後世に伝えるため、磐座・巨石の周辺を整備することを目的に申請し、採択してもらうことが出来ました。おかげで、昔からの悲願である天王様に手すりを付けることが出来ました。

この手すりがあるだけで、どんなに安全安心に登り降りできるか、ぜひ広く沢山の方に、天王様の磐座に足を運んでいただきたいと思います。

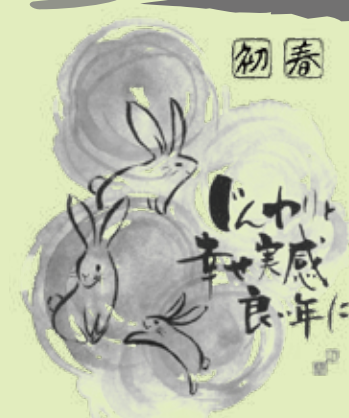
今回も私の拙い行政報告にお付き合いいただきまして、ありがとうございます。もっともっと勉強して頑張りますので、ぜひ皆様の感想等、何かの折に声をかけてやってください。よろしくお願い致します。



行政 NEWS

とっしん

vol
39



新しい年を迎え皆様へ健康と多幸を
心よりお祈り申し上げます
本年もよろしくお願い致します

皆さまには本当にいつも、温かく見守っていただき、そして励ましていただき本当にありがとうございます。今年は、「癸（みずのと）卯（うさぎ）」年です。卯は穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。去年も閉塞感に包まれた一年でしたが、そんな今だからこそ、ピョンピョン跳ねるうさぎにあやかり、「飛躍の年」になりますよう、お祈り申し上げます。

私は今まで通り、【とっしん】で、頑張っていきたいと思えます。

今年もよろしくお願い致します。私はいつも、皆さまの声を市政に届けていきたい、その思いでいます。その思いは、今もこれからも変わることはありません。これから、ますます寒くなりますが、皆さまにはどうかご自愛ください。

今回の私の一般質問は

1. ごみ集積所について 2. 保育園・こども園の給食について 3. 空家等控除支援事業について
を取り上げさせていただきました。

1. ごみ集積所について

ごみステーションについては、瀬戸内市ごみ集積所設置に関する補助金があります。

補助金の交付対象は、地域住民の団体等がごみ集積所の整備に要する経費とあります。補助金額は、経費の 3 分の 1 で、30 戸以下で 10 万円、60 戸以下で 20 万円、90 戸以下で 30 万円、91 戸以上で 40 万円です。整備という名目ですが、実質新設にしか出ません。

この補助金は平成 16 年から施行されています。どのごみステーションもかなり老朽化が進んでいます。この補助金が使にくいのは、新設にしか出ないところです。ちょっと扉が壊れていても、修理代は出ません。いっそのこと買いかえると補助金は出ますが、それにしてももったいない！という使にくいさを一番耳にします。

くさかとしこの主張： —————

岡山市も倉敷市も、ごみステーション補助金は改修にもしっかり対応しています。

近隣の事例もしっかり研究していただいて、使いやすいものになることを主張しました。

ごみステーションについては、成り立ちと現状が、そぐわなくなったという話もよく聞くようになりました。たとえば、以前はごみといえば汚いイメージもあり、町内会の端の遠い場所に設置されていることがあり

ます。しかし今では、一人暮らしのお年寄りが増え、そこまでごみを運ぶのがつらくなっているごみステーションもあります。

また、以前はそんなに危ない場所ではなかったのが、今では県道沿いで通行量が増え、ごみステーションに停止する車と通行する車で非常に危険なごみステーションもあります。そういったところは、ごみステーションの移設を検討されています。移設にも改修にも対応できる補助金にして欲しいとして、執意部からは、前向きな言葉をもらうことが出来ました。早期の変更を期待します。

令和 5 年 1 月 24 日発行
発行責任者 瀬戸内市議会議員

くさか としこ

〒701-4273
瀬戸内市長船町磯上 569
TEL/FAX 0869-26-6420
携帯 TEL 090-5702-8336

ホームページ
<http://www.kusaka-toshiko.jp/>



【くさかとしこ】の一般質問を通して

2. 保育園・こども園の給食について

保育園・こども園の給食調理員について、R5年度から会計年度任用職員の、8時間のフルタイム職員を7時間のパートタイム任用へ切替する動きがあります。

保育園に通う時期は味覚が育つ大切な時期です。

子どもたちに素材本来の味を楽しんでもらうために、保育園の給食は国産で、生の素材、無添加、薄味にこだわり、手作りを心がけて作っていただいています。保育園は、食べる楽しさを感じ、食に関心を持ってもらうよう、おやつ作り体験やお箸の練習になる食事の提供など、様々な食育にも取り組んでいます。

保育園・こども園の給食は単にお昼ご飯ではなく、3時のおやつがあり、小さい子どもには10時のおやつもあります。今でもいっぱいいっぱいという中、今より勤務時間が短くなって調理に支障をきたさないか心配です。

くさかとしこの主張 ♡ =*=

今でもいっぱいいっぱいなのに、10時のおやつに対応して、お昼ご飯、そして3時のおやつの片付けまでしておかないと、また次の日に同じことを繰り返さなければいけないのが、給食ではないでしょうか。

瀬戸内市は、ふるさと納税を活用して学校給食に地場産物を供給し、地産地消給食を推進するプロジェクト【食のしあわせプロジェクト】を、10/26に開始しました♡

年間2,500万円を目標に、市内幼小中学校、保育園の給食に、地場産物を届ける仕組みです♡

現在、約3ヵ月で5千万円以上が集まり、目標達成と聞いています。せっかくこんな素晴らしい取り組みをしているのに、仏作って魂入れずにじゃないですが、一番大事な給食を作るところを削減したのでは、せっかくの取り組みが台無しではないでしょうか。

瀬戸内市は、幼小中の給食と違って、保育園・こども園は自園調理体制をとっています。自園調理で、ただ毎日手作りの昼食を提供できるだけでなく、おひな様やこどもの日、クリスマス、冬至など季節に応じたイベントと食事を関連づけた保育サービスを提供しています。楽しみながら食べることを学ぶ「食育」の機会を自然な形で実現できるのも、自園調理のメリットです。

私が言いたいのは、自園調理の瀬戸内市の保育園・こども園の給食は、素晴らしい。それを、わざわざリスクを冒して会計年度任用職員のフルタイムをパートにする必要はないのではないかと思います。給食の調理員は、現業職にあたります。市は、現在現業職の新規職員は雇わないことにしています。だから、給食の正規職員はどんどん減っているわけです。私にはその難しいところはわかりませんが、必要なものは必要だと思うのです。そこを無理するから、いろいろなところにしわ寄せがいくような気がします。



磯上の耕作放棄地3町をこんなステキな野菜畑に換えてくれた若者がいます。市の【食のしあわせプロジェクト】は、こういった頑張っている農業者にも好循環や恩恵をと思うのですが、まだまだそうはいきません。納入条件が厳しいわりに買い上げ代金は、市場と変わりません。であれば、市に納入するメリットがないのです。まだまだ制度のチューニングが必要だと思います。

12月議会から

瀬戸内市は、平成28年～令和2年の5年間、環境省のCO2排出抑制対策モデル事業に全国に先駆けて応募し、採択され実施しました。

その事業の中で小中学校にエアコンを設置しました。そしてこのエアコンは、デマンド制御の高機能なダイキンのエアコンがセットでした。このデマンド制御には年間2,300万円の維持費がかかります。

その上その事業の電力は、新電力の【F-Power】が紐づけられていました。現在その【F-Power】という新電力会社は倒産しており、その受け皿会社【FPS】という新電力会社が今の電力会社です。

そんな新電力会社の電気代が安いわけがありません。瀬戸内市はこの環境省のCO2排出抑制対策モデル事業をしたせいで、大半がこの新電力会社【FPS】との契約になっています。その上電力会社を変えることは向こう2年できないのです。

くさかとしこの主張 ♡

環境省のCO2排出抑制対策モデル事業は、はっきり言って瀬戸内市の失策です。この事業に手を出さなければ、H29年には国からの事業でエアコンはつきました。4年もかからず、市の持ち出しもなかったはずです。

そのうえ、デマンド制御なんていう高機能のシステムも必要なかったし、今の倒産するような新電力会社に手を出す必要もありませんでした。

12月議会に、電気代の高騰に伴う補正予算約1億3千万円が計上されました。今は仕方ありませんが、一日も早く新電力会社と手を切ることが必要です。



日本政府の2050年にゼロカーボン達成目標より早く、瀬戸内市は2040年に目標達成を目指しています。

そしてそのために、国の重点対策加速化事業に応募し採択され、R4年度から取り組みを始めました。

今年から、一般家庭への太陽光発電設備・蓄電池・電気自動車・EVスタンドへの補助事業が始まります。

国の、第2回脱炭素先行地域づくり事業に申請しましたが、採択されませんでした。

再度、第3回の事業応募を目指しています。その中で瀬戸内市が取り組むものとして、

■ 木質バイオマス発電の取り組み ■ 地域新電力会社の設立 ■ まちづくり法人の設立

があげられています。

どれも、お手軽に始めるようなものではない気がします。それにしては、第3回への応募ありきで、十分な計画がおざなりになっている気がして、危険な香りを感じます。

はっきり言って、前回の失策のCO2排出抑制対策モデル事業の二の舞にならないかが心配です。

しっかりチェックしていきます。